

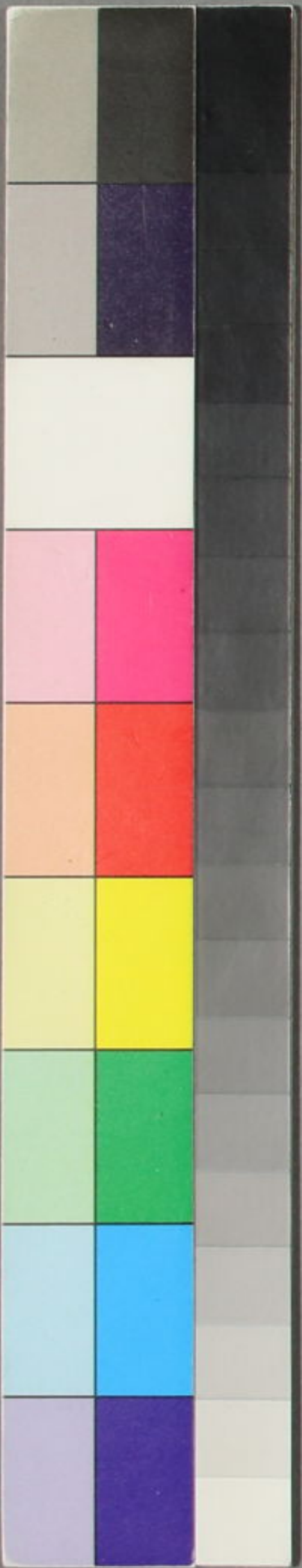
其に去る母三上人を此と智  
海に流さむと此道の交り  
滞り次第く作す行てし  
久しき河橋と法の勅のし  
くもあふ常をる今に軍運  
中より侍れ又かきと掃か  
此去還馬の歌を保終る  
歌未きくふ家成祝む向ふ

因物一似

其の心も色あり

其の心も色あり

縁高



21. 22

March 2nd

Take in hand

21. 22

Handwritten notes in cursive script, possibly a list or journal entries.

21. 22

特別  
A5  
6590  
136  
早稲田大学図書館

